

平成 20 年度「造形表現指導法」授業報告

笹 井 弘

Sasai Hiromi

キーワード：発達段階 エコアプローチ造形 描く技法 ピンホール写真 おもちゃ

はじめに

造形表現指導法は、幼児教育の領域「表現」の意味と、造形活動の在り方の理解を目的にする。幼児期の造形活動は人生でもっとも活発、且つ積極的に行われる。生活の殆どは遊びであり、それは造形的要素がきわめて多い。主に「もの」を媒体とした造形活動は、幼児の表現手段、媒体、コミュニケーションとして欠かすことはできない。そのため、保育における造形表現活動は、幼児の性別や年齢、経験の量や内容と質、また環境への対応能力や社会性などの個人差があることを理解する。その上でいろいろな素材や用具を使い創造的表現力を身につけさせる。また、豊かな心情や感性を育てるために保育者の関わり方を理解する。

指導内容

1、「描くこと」を中心にした発達段階に合わせた描画指導法演習について

<目的>：描くことについて年齢ごとの関わり方を理解する。

<方法>：幼児の発達段階を1～2歳、3歳、4歳、5歳に別け、まず教員が各年齢に合わせて描くことを中心にした演習プランを作成し学生に提示した。学生は任意の3名から5名程度のグループを作り教師の演習プランや造形関係の図書、並びに自らの経験などを考え合わせ演習プランを作成し、グループごとにプラン作成者が指導者になり、他のメンバーは幼児役として演習に参加した。尚、グループ以外の演習にも参加したい場合はそれを可能にした。そのため指導者役としての経験を1回と幼児役として数回の異なる演習に参加することで幾つかの表現を体験した。

ここでは、学生プランを年齢ごとに2点ずつ紹介する。尚、学生プランの文章の要約を教員の判断で行った。

<描くことに関する技法のヒント>

- 1、スタッパリング
- 2、スタンピング
- 3、コラージュ
- 4、マーブリング
- 5、デカルコマニー
- 6、ドリッピング
- 7、マースキング
- 8、ローリング
- 9、フィンガーペインティング
- 10、ウォッシング
- 11、ステンシル
- 12、スクラッチ

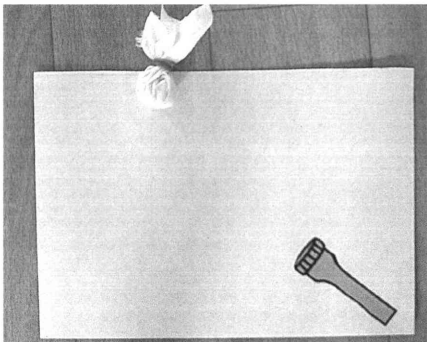
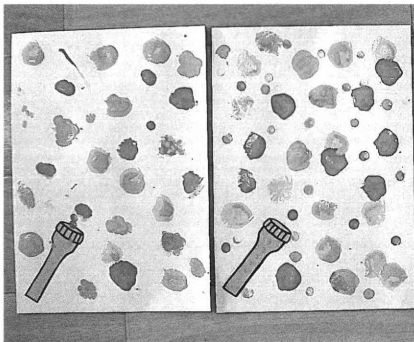
<発達段階のヒント>

- 1、1～2歳 直接身体を使った表現
- 2、3歳 観察から表現へ
- 3、4歳 絵の具と筆、水の使い方
- 4、5歳 色彩の知識、描画材の選択

<1～2歳 学生プラン1「大きな木を作ろう」>

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 R.M)		
想定年齢 (1～2)	演習タイトル「大きな木をつくろう」	備考
<p>指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を使う楽しさを感じる ・秋の季節を感じる 		
<p>事前の遊びあるいは造形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外へのお散歩の時や外遊びの時に秋の紅葉したもみじなどを見に行く 		
<p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、赤、黄色など暖色系の色をパレットに出し水を加え適度な濃さにする 2、幼児の手をパーの状態で絵の具につけ手のひら全体に絵の具がつくようにする 3、あらかじめ用意しておいた幹と枝のついた大きな画用紙 (写真1) にスタンプしていく (写真2) 4、展示 		<p>大きいパレット (バット)</p> <p>床が汚れないように新聞紙を敷く</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(写真1)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真2)</p> </div> </div>		
<p>準備する教材：色画用紙で幹と枝を描いてあらかじめ貼っておいた大きな画用紙</p>		<p>参加者：4名</p>
<p>準備する材料と道具：絵の具・パレット (バット)・新聞紙</p>		

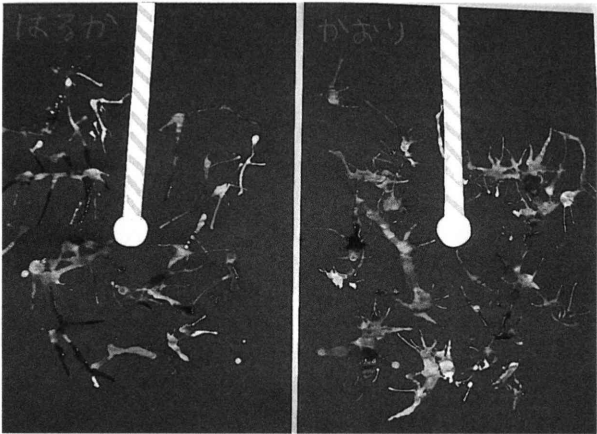
<1～2歳 学生プラン2「シャボン玉」>

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 R,A)		
想定年齢 (1～2)	演習タイトル「シャボン玉」	備考
<p>指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンポを使って表現する 		
<p>事前の遊びあるいは造形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外でのシャボン玉遊びでシャボン玉の動きや形、質を体験させる 		
<p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、タンポと絵の具と画用紙を配る (写真3) 2、はじめは一緒にやって感じをつかませる 3、一人でやる 4、完成 (写真4) 5、展示 		<p>パレットは大きいもの</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(写真3)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真4)</p> </div> </div>		
<p>感想</p> <p>タンポの代わりに指を使うのもいいと思った</p> <p>色が混ざりいい色になった</p> <p>色を選んで仕上がりをもっときれいにするように考えるべきだった</p>		
<p>準備する教材：吹き口を描いた画用紙</p>		<p>参加者：4名</p>
<p>準備する材料と道具：タンポ・絵の具・パレット</p>		

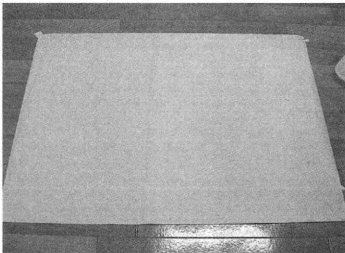
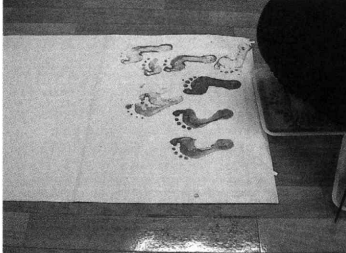
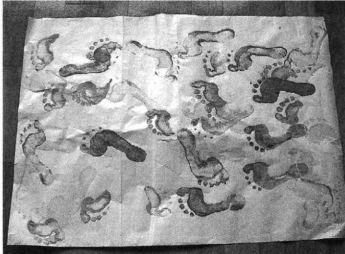
< 3 歳 学生プラン 3「野菜スタンプで遊ぼう」 >

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 C,N)		
想定年齢 (3)	演習タイトル「野菜スタンプで遊ぼう」	備考
指導のねらい ・野菜の断面を見て知ろう ・スタンプで表現を楽しもう		夏野菜の時期に
事前の遊びあるいは造形 ・野菜を見せたり、野菜に関する本を読み聞かせ興味を持たせる		
展開 1、画用紙を 1 人 1 枚机の上に用意する 2、幼児が、れんこん、オクラ、ピーマンなど好きな野菜をテーブルから選ぶ (教室の前のテーブルに野菜を並べておく) 3、選んだ野菜を指導者が包丁で切る (写真 5) 4、絵の具をといて入れたお皿に野菜の断面をおしつけ、画用紙にスタンプする (写真 6)		汚れても良い服装
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(写真 5)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真 6)</p> </div> </div> <p>*スタンプする色を変えたい時は野菜の断面を布で拭く</p>		
準備する教材：		参加者：3 名
準備する材料と道具：画用紙、スポンジ、絵の具、野菜各種、包丁		

< 3歳 学生プラン4「絵の具を吹いて花火をつくろう」 >

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 M,H)		
想定年齢 (3)	演習タイトル「絵の具を吹いて花火をつくろう」	備考
指導のねらい ・絵の具を吹くことで絵が描けることを知る ・吹く力の強弱を知る		
事前の遊びあるいは造形 ・実際にストローで紙くずなどを飛ばしてみる		
展開 1、席に座らせる 2、前で実際にやってみせる 3、線香花火の芯のみを描いた画用紙を配る 4、それぞれの画用紙に3色の絵の具をたらす 5、ストローを配り、吹かせる (写真7) 6、乾かしてから展示		
		
(写真7)		
感想：3歳児には少し難しかったと思う。吹くのに結構力が必要なため5歳児向きと思う。		
準備する教材：線香花火の芯のみを描いた暗い色の画用紙		参加者：5名
準備する材料と道具：絵の具、(赤・青・黄色) ストロー		

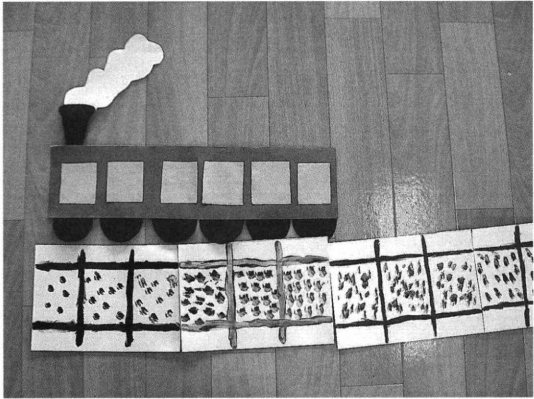
< 4 歳 学生プラン 5 「あしあと」 >

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 H.K)		
想定年齢 (4)	演習タイトル「あしあと」	備考
<p>指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の基本的動作を確認しながら、それを目に見える形で表現することを楽しむ 		
<p>事前の遊びあるいは造形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩に出かけたりジャンプをしたりして足の動きを確かめる ・ 走ったりゆっくり歩いたり足の裏の使い方を確かめる 		
<p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、足の裏に絵の具をつける 2、画用紙にスタンプして左右の形の違いを確認する 3、模造紙の上を歩いたり走ったりジャンプしたりして足跡の形の変化を楽しむ (写真 9) 4、完成 (写真 10) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>床に固定した大きな画用紙 (写真 8)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真 9)</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>(写真 10)</p> </div>		<p>パレットは足が入る大きさのバット</p>
感想：動作によって色を変えればよかった		
準備する教材：		見学者あり
準備する材料と道具：絵の具、パレット、画用紙、模造紙、雑巾		

< 4歳 学生プラン6「秋のピクニック」 >

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 R,K)		備考
想定年齢 (4)	演習タイトル「秋のピクニック」	備考
指導のねらい ・動物をたくさん知る ・折り紙を使って指先の細やかな動きができるようになる ・落ち葉を使って自然を感じる		
事前の遊びあるいは造形 ・いろんな動物が何を食べるのか知る		
展開 1、折り紙で秋の幸を作る 2、足りないものは指導者が補充 3、折った秋の幸をかごの中にのりで貼る (写真 12) 4、まわりに落ち葉を貼る 5、展示		
 <p>(写真 11)</p>		
 <p>(写真 12)</p>		
準備する教材：動物とかごを描いた大きめの画用紙 (写真 11)		参加者：5名
準備する材料と道具：絵の具、折り紙、のり		

< 5 歳 学生プラン 7 「線路は続くよどこまでも」 >

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 R,F)		備考
想定年齢 (5)	演習タイトル「線路は続くよどこまでも」	備考
<p>指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左から右へ長い横線と上から下への短い縦線の組み合わせを表現する ・ 線路の幅は同じであることを理解する 		
<p>事前の遊びあるいは造形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「線路は続くよどこまでも・・・」を歌いながら線路について興味を持たせる ・ 電車ごっこなどで線路の幅は同じ事に気づかせる 		
<p>展開</p> <p>1. 線路を描く</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 指で左から右へ平行線を描く (2) 筆を使って絵の具で描く 左から右へ平行線を上から下へ枕木を平行に描く (3) 石を描く (4) 描いた線路を使ってあらかじめ制作しておいた電車を走らせる 		
 <p>(写真 13)</p>		
<p>感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 完成見本を見せて説明すればよかった 2. 筆の代わりに指でもおもしろかった 3. 石を描く場所の説明が不十分だった 4. 好きなように線路を作れるので飽きない 		
<p>準備する教材：電車、はしご</p>		参加者：3名
<p>準備する材料と道具：絵の具、色画用紙、筆、パレット、水入れ、布</p>		

< 5歳 学生プラン「マーブリング」 >

発達段階に合わせた描画指導法演習計画表 (学籍番号 **** 名前 A,K)		備考
想定年齢 (5)	演習タイトル「マーブリング」	
<p>指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶然出来た模様親しむ ・絵の具が水に浮くことに気付く ・同じものが一つもないことを楽しむ ・色を混ぜることで元の色から変化する色を楽しむ 		
<p>事前の遊び或いは造形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を好きな形に切る ・作品見本を見せイメージをつかませておく 		
<p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、色のつけ方を説明する 2、タライに水を張り指導者が1回やってみせる 3、子供たちがやる <ul style="list-style-type: none"> (1) 色を3色まで決めてたらす (2) 色をかき混ぜた作品と混ぜない作品の2種を制作 4、友達と見せ合い感想を話す 5、完成 (写真 15) 展示 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(写真 14)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真 15)</p> </div> </div>		
<p>反省等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しんでもらえてよかった ・参加者の好きな形や色で出来たらよかった ・声かけをする余裕が欲しかった 		
準備する教材：見本		参加者：5名
準備する材料と道具：はさみ、画用紙、水、パレット、バケツかバット、絵の具		

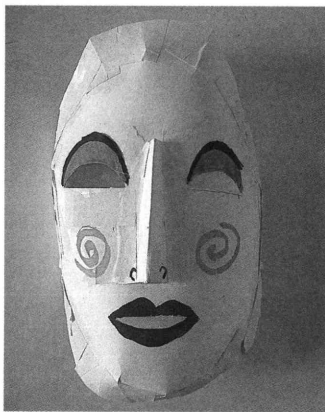
2、「ごっこ遊びと表現」について

お面と軍手人形の制作

<目的>：ごっこ遊びから発展させた造形表現の理解

お面（写真 16）は、それを使うことで、あるキャラクターに変身して非日常を楽しむことができるごっこ遊びの代表的造形物である。作り方は、画用紙の顔面部分周囲に無数の切込みを入れ、裏側に曲げ接着することで凸面状の形態にする。切り込みの間隔と深さによってゆったりと顔の形に添ってカーブするが、切り込みの幅が狭すぎたり浅かったりするとお盆状になってしまうので注意する。

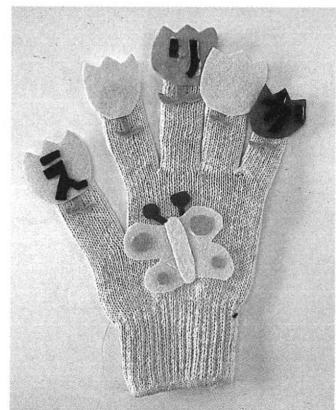
軍手人形（写真 17, 18）では、動物や家族のキャラクターを表現し、それを話に合わせて動かすことで興味を引き、動物に親しんだり、家族関係を作り出したりすることができる。また、保育者が園での自己紹介などでも利用できる。



(写真 16)



(写真 17)



(写真 18)

3、「発達と表現」について

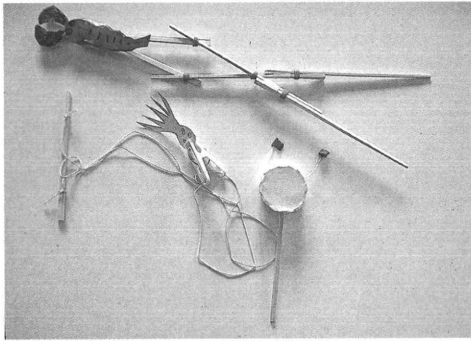
割り箸おもちゃの制作

<目的>：科学的な観察から造形につなげることを理解する。

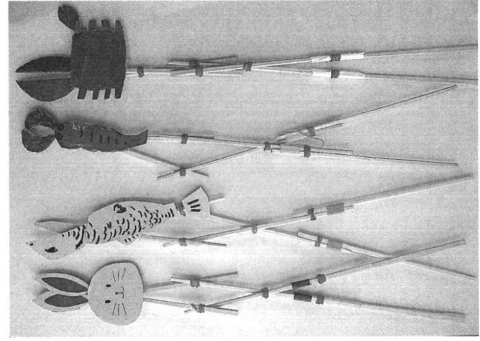
割り箸を使って 3 種類の作品を制作した。でんでん太鼓（写真 19 の中央）は、持ち手部分に割り箸を使用した。紙コップを三分の一ほどに切り落とし、コップの底を太鼓片面部分に、もう一方の切った側には水をしみこませた画用紙を貼ってから乾かした。太鼓面に当たるバチの取り付け位置と紐の長さには工夫が必要だった。

3 膳の割り箸を輪ゴムとテープでつなぎ合わせ動物の一部を動かす作品（写真 20）は、手元の割り箸を広げると連動して先端部分も広がることで動物や生物のある部分が動きユーモラスに見える。見立ての楽しさばかりでなく、遠く物をつかむ用途にも使用することができた。

スルスル登り（写真 19 の左）は、洗濯ばさみと紐と割り箸を使用、割り箸は紐の張力を発生させるための力点部分に使用した。



(写真 19)



(写真 20)

4、「紙素材表現」について

新聞紙を使った造形表現 (写真 21, 22, 23)

<目的>：新聞紙や包装紙で遊びも含めた造形表現の在り方を理解する。

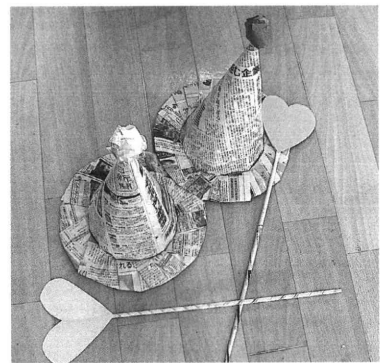
手に入り易く、加工し易く、様々な遊びや造形での利用価値が高く、且つ利用対象年齢幅が広い素材としての新聞紙は、幼児の発達段階の理解や造形表現指導に欠かせない造形材料である。破いたりちぎったりする感触を味わう遊びから、丸めて棒にして道具にしたり、動物や魚などの造形、簡単な服から飾りを付けた服など紙造形を通して遊びや表現の理解を深め、素材の可能性を探る。特に新聞紙を破ったりちぎったりすることは、幼児が緊張している状態の時は、気持ちをほぐしたり、ストレスの解消に効果的である。本来造形は作り出す行為であるが、このマイナスの造形は幼児にとっては大切で有意義な行為であることを強調した。



(写真 21)



(写真 22)



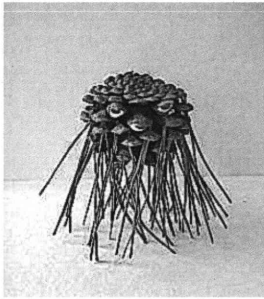
(写真 23)

5、「自然観察から造形表現へ」について

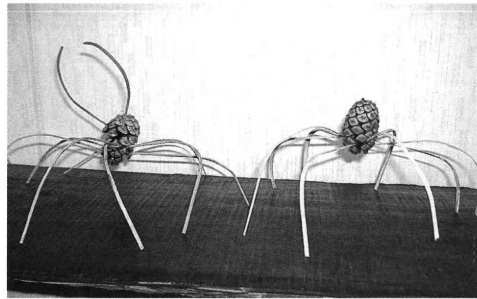
松かさによるゴジャ（写真 24）と動くクモ（写真 25）の制作（エコアプローチ造形）

<目的>：身近にある植物を使った造形表現を通して、自然の観察力を養い、自然についての興味や関心を育てる。また、造形表現の基礎知識を習得する。

ゴジャは、松かさの見立てと松葉の構造の二つの特徴を組み合わせて造形化したもので、ダンボール箱の上などで箱に振動を与えることで松葉の弾力で動き回る。また、動くクモは、松かさの水に濡れると笠を閉じ、乾くと開く運動幅と動力を利用して竹籤の足で立ち上がる作品である。



(写真 24)



(写真 25)

6、「紙粘土造形とピンホール写真」について

<目的>：紙粘土造形については二つの目的があった。一つは、描くことでは味わえない表現への欲求を満たす素材としての粘土の理解と、それに関わる道具の準備と片付けの手順の理解。もう一つはピンホール写真の被写体としての作品の制作である。

ピンホール写真は行程と結果の因果関係の理解を目的にした。

紙粘土造形（写真 26, 27）

軽量の紙粘土を使用し、好みの物を制作した。この粘土は絵の具を少量混ぜ色粘土として使うことができる。また造形後着色することも出来る。



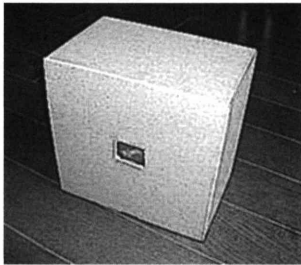
(写真 26)



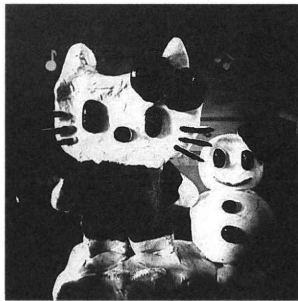
(写真 27)

ピンホール写真 (写真 29, 30)

各自制作したダンボール製ピンホールカメラ (写真 28) で自然光を利用して紙粘土作品を撮影した。目的からすれば、学生が全行程を体験するのがベストではあるが、設備の関係上教員がネガ現像、焼付け、ポジ現像を行った。20 年度最後の指導内容として実施したため時間的に余裕がなくなり、やむなくカメラ製作で一工程を省いた。そのため 100% 光を遮断した暗箱ができなかったことと、現像においても 100% 光を遮断した暗室が作れなかったことなどから満足がいく作品が少なかった。これは教員の責任である。この場をかりて学生にお詫びする。



(写真 28)



(写真 29)



(写真 30)

おわりに

造形表現指導法は、前期の図画工作に続き後期の授業として行われた。初めてこの授業を担当するにあたり、前年度 3 月に内容や実施の順番などシラバスを考えた。その時点では、幼児教育における造形経験が無かったことから「描くこと」の関わり方が十分把握できなかった。4 月からの図画工作や附属幼稚園の造形活動、及び他の幼児教育の現場での造形活動を見聞きするにつれ、「描くこと」が造形活動全般へ広く深く関わっていることが認識できた。

そのため FD 的には問題があったが、当初のシラバスでの予定を大きく変更して、「描くこと」に関する演習を十分時間をとって最初に実施した。まず教員が年齢別にプランを提示した後、学生自ら調べたり、また自らの造形体験を思い出しプランを立てた。立案の際、子供の年齢に合った教材の考察と制作、並びに年齢に合った絵画技法の選択に特に留意させた。また子供役としての参加者には、さまざまな描画体験に積極的に参加することで技法の習得と指導方法の観察に留意させた。この模擬演習は、指導者と参加者の両方の立場を経験することができ、学生にとって有意義な体験になったと考える。

その他「描くこと」以外の実施内容については、ピンホール写真を除いてほとんどが 90 分で完結する時間配分で実施した。結果的に日替わりで作品が完成することで学生には適度な緊張感を与える結果となった。

以上のことから平成 21 年度の造形表現指導法については、昨年度に増して「描くこと」に関わる演習を一層充実させたいと考えた。そのため、物理的に条件がまだ十分整わないピンホー

ル写真の代わりに「4 ページの絵本」の制作を導入した。絵本制作にあたり年齢差の留意にとどまらず性差も考慮に入れた絵画的表現の理解につなげたいと考えている。尚、ピンホール写真は少人数で且つ時間が十分使える他の授業で再度試みたいと考えている。

*掲載した演習プランと学生作品は学生の許可を得て使用した。また、学期末に描く技法の種類、紙素材表現並びに粘土造形の在り方について、確認する意味で簡単なテストを実施した。

(参考資料・図書)

- 1、幼稚園教育要綱（文部科学省）
- 2、造形表現 理論・実践編（花篤 實著・他／三晃書房）
- 3、保育内容 造形表現の指導（村内哲二編著／建帛社）
- 4、描画指導（芸術教育研究所・おもちゃ美術館編／黎明書房）
- 5、手作りおもちゃアイデア集（立花愛子著／チャイルド本社）
- 6、シリーズ・子どもと作る 12 お面を作る（松延 博／大月書店）